

南日本運輸倉庫

アプライズと合弁会社 ベトナムに設立

南日本運輸倉庫（大園圭一郎社長、東京都中野区）は8月27日、海外人材等の仲介を行うアプライズ（岩堀克英社長、同品川区）と、物流合弁会社をベトナムに設立することを明らかにした。

2016年から、ベトナムになった」と説明し、ナムから日本に来日して「これまでに技能実習生いるベトナム人留学生やなどで外国の方に働いて技能実習生のサポートをもらう経験をしてきた行う岩堀社長は「外国人の方も聞いて、そもそもの際、現地側でも色々とお金を含めて見直されるべきだ金を背負ってでも日本に来たい方を仲介するブローカーだけが儲かる事業のようになっていると、この現状がある。また、日本の制度上ではビザなどの関係で煩わしい手続きも沢山ある。そこで、海外人材を受け入れる企業側で現地に進出する予定や計画があるのなら、現地に拠点を作ってしまった方が採用もスムーズです」と、大園社長に提案した」と話す。

それを受けた大園社長も「将来的に海外展開も見据えているところだったので、ならば合弁会社を作りましょう」というこ



岩堀社長（左）と大園社長

本は技能を生かしてもらうというもの。現地法人設立までの期間と、出向が認められるまでの3年間は、アプライズが現在提供している、「ベトナムの大学生をインターンシップ生として渡日させ、日本国内の物流現場で雇用するシステムを活用する」と話す。

「アプライズは海外にも100%子会社があるが、現地での会社設立は、やはり信頼できるルートで話を進めることが大事。すると進出先で、その手続きの代行や手筈を整えることをビジネスとして人々を介することになり、そこで多額の資金が必要になる。しかし、会社を設立すること自体は、実はそんなにお金がかからない」と岩堀社長。そして「外国人に労働力として来てもらうには、現在の日本では単純労働だけのためでは認められておらず、技能実

習生として学びに来ていただく形になるが、物流業界が今必要とするのは労働力の部分。若い労働力を持った人たちが現場の仕事をして、その経験を自国に持って帰ってくれば良いし、それが将来、海外進出につながる。海外進出に繋がれば、社員の出向という形で来れば、日本で何年か働いて、人材が育ってくれる。そして技能習得後、帰国して現地の会社で日

習生として学びに来ていただく形になるが、物流業界が今必要とするのは労働力の部分。若い労働力を持った人たちが現場の仕事をして、その経験を自国に持って帰ってくれば良いし、それが将来、海外進出につながる。海外進出に繋がれば、社員の出向という形で来れば、日本で何年か働いて、人材が育ってくれる。そして技能習得後、帰国して現地の会社で日

現地法人設立を目指す

南日本運輸倉庫では、今後、インターンシップ生を受け入れながら、2021年4月のベトナム現地法人設立を目指す。（小澤 裕）